

第4回つくばみらい市義務教育施設適正配置審議会会議

及び つくばみらい市学区審議会 会議録要旨

《 平成31年4月24日（水）午後7時00分～つくばみらい市役所 伊奈庁舎3階大会議室 》

1. 開会

2. 会長あいさつ

事務局： それでは、会長あいさつということで、会長からご挨拶をお願いいたします。

議長： 皆様、改めましてこんばんは。本日は大変お忙しい中、この第4回審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。前回の第3回より約3ヶ月空きました。丁度3ヶ月前は、新年あけましておめでとうございますというご挨拶から始まりました。本日は、来週には早くも元号が令和になるということで、過日は新年を迎える、今回は新たな元号を迎える時期になりました。令和はとてもいい響きで、和やかに、穏やかに、和をもって、幸せな時代が来るといいと思います。そのようなことを願いながら、将来を担う子どもたちのための審議会ですので、子どもたちを中心に色々なお話をいただいて進めていければと思います。

第3回は、学校の先生であられる委員から、とても貴重なご意見をいただきました。おっしゃられたことは、1番大事なことは、子どもを第一優先に考えていくということです。児童・生徒数については、1学級に30人程度は必要なのではないか、1学年にはできれば3学級はあった方が、子どもたちの成長にとってはいいというお話を伺いました。また、中学校は、やはり、3学級は必要であり、3学級を切ってしまうと、主要5教科へ2人ずつの教員の配置ができなくなってしまいます。これは子どもたちにとって、本当に差が生まれてしまうということも教えていただきました。

また、子どもたちにとって大事な行事に、運動会、陸上競技会などがあります。様々な場において、やはり、人数が少ないと制約されてしまいます。クラス替えについても、子どもたちにとってはあった方がよい、この意見は先生たちの間では100%一致しています。少人数の弊害など、最も子どもたちの傍にいる先生方からこれからの第4回、最後の答申に向けた5回に向けて、貴重なお話をいただいたと思っております。

今日はそういった中で、第4回、第5回で諮問書にあるように、10年先、20年先を見据え、審議会に求められていることであり、義務教育の根幹である、小学校は1学年2学級以上のクラスであること。中学校は1学年3学級以上で9教科全てに専門の先生を配置できることへ向けた、実効性のある市の教育施設の適正配置のための答申に向けて、皆さんより様々なご意見をいただきたいと思いますので、本日はどうぞよろしく申し上げます。以上でございます。

3. 確認事項

(1) 第3回審議会の振り返り

- 議 長： それでは、次第「3. 確認事項」ということで、第3回審議会の振り返りについて、事務局より説明をお願いいたします。
- 事 務 局： 第3回審議会の報告と、次第にはございませんが、この後協議するにあたりまして、前提条件について整理させていただきたいと思います。
- 事 務 局： 《事務局より説明》
- 議 長： ありがとうございます。この件につきましては確認事項ということでございますので、次の案件に移ります。

4. 報告事項

(1) (仮称)つくばみらい市義務教育施設適正配置再検討計画(既に複式学級が発生している学校に関する計画)の策定について

- 議 長： それでは、次第「4. 報告事項(1)(仮称)つくばみらい市義務教育施設適正配置再検討計画(既に複式学級が発生している学校に関する計画)」というところで、事務局より説明をお願いいたします。
- 事 務 局： 《事務局より説明》
- 議 長： この件につきましても、報告事項となりますので、次の案件に移ります。

5. 協議事項

(1) 適正配置の再検討について(中学校の適正配置)

- 議 長： それでは次第5. 協議事項に入りたいと思います。「(1) 適正配置の再検討について(中学校の適正配置)」です。前回の審議会の続きになりますが、変更点などを中心に、事務局より説明をお願いいたします。
- 事 務 局： 《事務局より説明》
- 議 長： ありがとうございます。最後にありましたが、改めてこの審議会の中で、10年、20年先を見据え、5年に1度、審議会を開催し、その都度あるべき姿を、人口推移などの様々な角度から、検討していくようなかたちで進めていただければというお話がありました。今の件につきまして、委員の皆様のほうから、何かご意見、ご質問等があればお願いしたいと思います。
- 資料8ページの学級数推移をこれから先見ていったときに、やはり、現在9クラスより減ってしまっている学校もあります。また、近い将来9クラスより減ってしまうことが予測される学校があることが、改めて見えた部分かと思えます。
- 事務局の方向性としては、このようになったときに、又は、そのようになる前に適正規模に向けて、5年おきに推移を見ながら進めていければということでもよろしいでしょうか。
- 事 務 局： はい、そのとおりです。

- 議 長： 今後、今のままでいくと、クラス数は減っていく方向になるというのは、今の段階では確実なのかと思います。なので、そうならないように、準備していくというのが事務局の考えのようですが、皆様、改めてそれについて何かご意見等ありましたらお願いいたします。
- 委員： 事務局の説明にありました、パターン 2、パターン 3 は非常に点数も高く、現実的で合理性があるのかと思います。それから、既にある学校を有効活用するというのも大切だと思います。なので、私も事務局の提案したパターン 2、パターン 3 に賛成します。
- 委員： 今後、小規模校となる小絹、または伊奈東中学校は、まだ人口推計がどのようになるかわかりませんので、5年おきの見直しというのは、有効な手段なのではないかと思っています。
- 委員： 改めてこのようなデータを示していただきまして、内容を見ると確かに事務局案のように、パターン 2、またはパターン 3 が最も適切かと感じます。ただ、パターン 2、パターン 3 においても、伊奈東中学校の過小規模校状態が継続するかたちになります。伊奈東中学校が過小規模校となっている状況を、このままにするのではなく、伊奈東中学校の生徒数を増やす案というのは出ないのかなということも少し感じます。
- 議 長： ありがとうございます。今の伊奈東中学校の件については、これから推移を見ていっても 9 クラスになることは、間違いなくこの数字からだとどうしても読めないです。生徒数を増やし、9 クラスにする方法はあるのかどうか、また、そうでないなら、今から一緒にさせていただくような考えは、事務局にあるのか教えていただけますか。やはり、このままの状況を維持するのは子どもたちがかわいそうだと思います。
- 事務局： 確かに、現時点での推計では、伊奈東中学校の学級数は 6 クラス、7 クラスになるところでございます。しかし、板橋地区においては、みらい平地区に近いということもありますので、あともう少し様子を見たいというのが正直なところです。先程ありましたように、5年ごとに審議会を開催し、人口推計を見て、改めて方向性を出したいと考えております。
- 委員： 伊奈東中学校を統合という方向ではなく、学区の編成で伊奈東中学校の生徒数を増やせないかという考えです。
- 委員： 私も事務局に出していただいたパターン 2、パターン 3 の既存の中学校を活用していく方向に賛成です。やはり、将来的には、今後人口推移を見ながら検討していくという案がいいかと思っております。なので、事務局案に賛成いたします。
- 委員： これまで検討してきた中で、私としては、パターン 1 と、パターン 1-A の中間くらいがいいのではないかと思うのですが、学区の線引きを変えるということに対して、市としては難しい部分があるのかと思います。そのようなことを踏まえただうえで、私としては、パターン 2 の中学校の増築でも 7.6 億かかり、パターン 3 に関しても、小学校を中学校として活用する段取りがあるということに対して、課題があることと思っています。どの適正配置パターンを取るにしても、課題はあるのかと思います。

その中で、伊奈東中学校では、やはり、生徒数が少ないので、部活動をするうえで厳しかったりするので、他校と同じような生徒数にしたいという考えはあります。しかし、今、道路も作ろうとしていて、それができるとまた人口の分布も変わったりするかと思います。今、伊奈東中学校が致命的な状況かという、そうではないところで、5年後に検討というのも仕方がないのかなと思います。

委員： 私はパターン2かパターン3で悩んでいます。いずれにしても、みらい平地区の生徒が多く、そのため伊奈中学校、谷和原中学校の生徒数が多くなっています。みらい平地区の生徒に伊奈東中学校に来ていただければ、ある程度のバランスは取れると思います。学区などの問題があると思いますので、希望制にしたり、伊奈東中学校に通学したい人を募集したりするなど、区域外から通学することはできないでしょうか？

そのようなことをしないと、1学年3クラス以上にするには、生徒数が偏ってしまっています。

事務局： 現在、伊奈東中学校につきましては、みらい平から延びる道路を作る計画がされているところもあり、今後、完成することにより生徒数が増えてくることもあろうと考えております。今、ありました、別の学区への通学につきましては、ご意見としていただき、実際に計画を策定する中で、運用などについて考えていきたいと思っています。

委員： パターン3の場合は小学校の校舎と中学校の校舎をそれぞれ利用するということです。そこで、学校の先生である委員にお伺いしたいのですが、校舎が2つに分かれたときの運用はやりづらいということはありませんか？

委員： 同じ敷地内にあったほうが運営しやすいと思いますが、谷和原中学校と谷原小学校の距離でしたら工夫をすればできないことはないと思います。

委員： パターン2、パターン3にするかということについて、意見を申し上げたいのです。この委員会では、その選択は避けて、どちらで実施するかということは、行政や、中学校の先生方の意見を聴いたりするべきではないかと思います。なので、この審議会では2つのパターンのどちらかというような答申の方がいいかと思います。

議長： ありがとうございます。いかがでしょうか。

委員： はい。いいです。

議長： 皆様から、本当に子どもたちのことを考えた視点のとてもよいご意見を多くいただきました。基本的には、やはり、事務局案のパターン2、またはパターン3でいけたら、きっと子どもたちのためになるのかなと思います。

その中で、今すぐ実施するというのではなくて、推移を見ながら。前回の第3回審議会でも先生からのご意見がありました。無理に統合するのではなくて、やはり、子どもたちが小学校を卒業し、中学校に入学したときに、中学校が分かれることはかわいそうなことだと思います。そういったことで、子どもたちの心を考え、また、状況の推移を見守っていくこと、また校舎のこと、色々なことを踏まえ、事務局案に賛成という方向の中で、これから先生方や地域の方のご意見を聴きながら、事務局としては進めていきたいということで今お話がありました。そういう方向について、ここではそういうものが望ましい、それに向けて今すぐ決めるのではなく、色々な角度から様々なことを検討しながら、何が子どもたちにとって最もいいのかということで事務局は進めたいということでした。そのような方向で、今の段階では次に向けて進めさせていただくということによろしいでしょうか。

- 全
議
員： 《 異議無し 》
- 長： ありがとうございます。それでは、事務局には、今皆様のほうからそういうお話を元に進めるということでお願いしたいという意見をいただきましたので、よろしくお願ひしたいと思ひます
- 委
員： パターン2、パターン3で考えていくという点では賛成なのですが、確認させていただきたいです。パターン2、パターン3はどちらも伊奈東中学校が過小規模校になるということですが、できれば過小規模校を無くしていこうという前提で進めているはずだったと思ひます。しかし、やはり、現実的に考えてそれが難しいということでは理解できました。この場合に、谷井田小学校区を伊奈東中学校区に全て入れることにすれば、子どもたちが別の小学校に分かれてしまうということもなく、かつ、伊奈中学校の生徒数を減らして、伊奈東学校の生徒数を増やせると思ひますが、それができない理由は何かありますか？
- 事
務
局： 谷井田小学校区は、伊奈中学校と伊奈東中学校で通学距離を比べたときに、やはり、伊奈中学校の方が近いということがございます。
今回につきましては既存の4中を活用する方向で、最終的にはその学区の方も、次に小学校の部分がありますので、その辺りも踏まえて、再度検討させていただきたいと思ひます。
- 委
員： 資料25ページの中学校のまとめに、今後5年間隔で検討とか、そのうえで将来的には4中学校の体制から段階的に2中学校に統合することが“望ましい”とあります。前回のときに、10年、20年後には、2校体制という話はあったかと思ひます。しかし、この“望ましい”という言葉が出てしまうと、この審議会の中で、中学校も早く統合してしまおうということになったというふうにとられそうで少し怖ひです。この言葉を出すなら、出し方を少し注意していただきたいと思います。

事務局：ありがとうございます。本日、皆様方からいただいているご意見は、合理的に施設を活用して伊奈東中学校、小絹中学校の統合時期などについては、今の推計からいけば、次も検討していく必要があるだろうということ。それから、先程、伊奈東中学校のほうへ指定校変更など、学区を変える方法もあるだろうということ。また、冒頭でもありました、谷井田小学校の中学校区は、伊奈中学校ではなくて、伊奈東中学校にしてはどうかというご意見などをいただいております。次回審議会の中では、それらの意見を踏まえたかたちで答申案を皆様方にご提示したいと考えております。

それから、今ございましたご意見につきましても、その中で再度、ご確認いただければと思います。

議長：よろしいでしょうか。それでは進めさせていただきます。中学校の適正配置については、検討テーマのまとめのとおり進めていき、次回改めてまた事務局のほうで、皆様にお諮りする答申案を準備するということですので、そのようなかたちでお願いしたいと思います。

それでは次の小学校の適正配置の検討に入ってもよろしいでしょうか。

全 員：《 異議無し 》

議長：それでは事務局の方より、よろしく申し上げます。

(2) 適正配置の再検討について(小学校の適正配置)

事務局：《 事務局より説明 》

議長：ありがとうございました。今、説明いただきました、小学校の適正配置を進めるうえでの課題の整理と対応策、また、最後のお話にありました、小学校の統合に係る新たな小学校区の答申案について説明をいただきました。この件について委員の皆様からご意見・ご質問等ありましたらお願いしたいと思います。

委員：事務局説明でありましたように、十和小学校が複式学級になる前に統合を検討していくという案には賛成です。ただ、富士見ヶ丘小学校との統合を含めて検討していくということでしたが、実際に十和小学校が富士見ヶ丘小学校と統合となると、平成34年頃から過大規模校になり、教室数が足らなくなってしまうという状況があるので、隣接する谷原小学校との統合も視野に入れて考えた方がいいと思いました。

実際に、富士見ヶ丘小学校にも近い方もいれば、谷原小学校にも近い方もいますので、その辺りも検討していくべきだと思います。

議長：ありがとうございました。今の委員からのご意見について、事務局の方から何かありましたら申し上げます。

事務局：十和小学校については、検討していかなければならないというところがございますので、今回、案として富士見ヶ丘小学校との統合という例を提示させていただきました。本日いただいたご意見も踏まえて、次回、小学校の適正配置パターンについてお示ししたいと考えております。今回の十和小学校については、複式学級が発生しないように、事前に対応するという考えでいいのか、というところをお聴きしたかったところです。

- 議 長： 次回、答申案を示す予定です。まず、十和小学校が厳しい状況にあるということで、少しでも子どもたちのための適正配置を考えたいという方向で進めることについてはご意見よろしいでしょうか。
- 全 員： 《 異議無し 》
- 議 長： ありがとうございます。今のご意見については、委員の皆様からご理解、ご了承を頂きましたので、それについてはこのようなかたちで進めていただきたいと思います。では、それ以外のことで何かご質問等ありましたらお願いします。
- 委 員： 小張小学校と陽光台小学校の統合についてですが、陽光台小学校と一緒にになると、統合後の学校の過大規模校になる期間がかなり長くなると思います。小規模校、過小規模校の問題点も確かにありますが、過大規模校も問題点があると思います。
- できれば、一番いいのは標準規模校であって、もちろん学区を見直していただければ、小張小学校はもう少し児童数が増えますし、陽光台小学校も児童数が減りますので、お互いにいいようになると思います。陽光台小学校が開校した当初は、新しい学校に通いたいという方々がほとんどだったと思いますが、何年か経って、小張小学校に移ってもいいかなと思ってくれる方もいるのではないかと思います。なので、学区の見直しを希望したいと思います。
- 議 長： ありがとうございます。今のご意見について、事務局から何かありますか。
- 委 員： その前に、それに関連したことでお聞きしたい件があります。資料 27 ページの一番上の小張小学校のグラフは、住基実績の数値ですよね。実際は高波地区やその辺りの方は、陽光台小学校に通っていると思います。なので、通学実績で行くと、小張小学校は複式学級も視野に入ってくるのではないのではないかと思います。この辺りはどのように事務局は整理しているのか、お伺いしたいと思います。
- それから、今の学校区をそれぞれ地区ごとに分担した場合に、抵抗感がないのかどうかお聞きしたいです。例えば、小張小学校の下通りは、豊小学校の方が近いということもありますし、十和地区も先程ありましたように、富士見ヶ丘小学校に近い人と、谷原小学校に近い人がいます。地域で学校を分けることに対する考え方をどのように整理するか、事務局の考え方や皆様のご意見を伺えればと思います。お願いします。
- 議 長： 今のご意見について、事務局の方からお願いできますか。
- 事 務 局： まず、資料 27 ページの小張小学校区の児童数推計の下段にございます、住基実績と通学実績につきましては、先程ご説明しました指定校変更による実績と住基実績で違いがあります。
- 上段の推計につきましては、正直、将来推計を読むのはなかなか難しい部分ではありますが、平成 26 年から 30 年までの割合なども考慮しながら、クラス数、将来の推計について、参考としていただければと思います、こちらの表を提示させていただいたところです。

- 委員： 回答中申し訳ありません。この通学実績というのは、小張小学校の近くは小張小学校、陽光台小学校に近い人は陽光台小学校に通うという、地区的な特色のようなものはないでしょうか。
- 事務局： 資料 30 ページの図をご覧くださいと思います。赤く囲った部分の子どもたちについては、指定校変更で陽光台小学校の方に通っているという実績がございます。その過去の推移、平成 30 年の部分を見ていただくと、住基実績と通学実績の差がある部分については、このエリアの子どもたちが指定校変更をしております。少し難しいのは、陽光台小学校と小張小学校の子どもです。丁度真ん中の辺りが児童数の予測をするときに、どうしても地域ごとになってしまうので、そこが算出するのが難しいというところをご承知おきいただければと思います。
- 委員： 小張の下通りの子どもは何人くらいいますか。
- 議長： やはり、参考にしたい数字ですので、今出るものではないとしても、事務局は準備してください。
- 事務局： 先程ありました過大規模校・過小規模校のお話ですが、しっかりとその辺りを踏まえた適正配置案を提示させていただきたいと思います。
- 議長： よろしいでしょうか。
- 委員： 補足なのですが、先程中学校区の見直しの話でもあったように、みらい平からの道路ができて開発されていけば、板橋小学区の児童数も増えるかもしれないと言っていました。そうすると、その途中にある小張小学区はもっと児童数が増える可能性があります。また、児童数が増えた学校を、児童数の多い学校に統合するよりは、小張小学校をなくさないで、その児童数の増えた学校の児童は小張小学校に通っていただいて、なるべく陽光台小学校に負担をかけないで済むようにするのも1つの案ではないかと思います。
- あと、富士見ヶ丘小学校も児童数が多い時期がありますね。陽光台小学校には通えるけど、小張小学校や、谷原小学校に通学できないという人が、陽光台小学校の方なら行けるという場合に、陽光台小学校に通い、陽光台小学校の児童数が多いところの地区の方に小張小学校に来てもらうというように、柔軟に考えて、現存の設備を上手く使っていくというようなことも考えてもらいたいと思います。
- 事務局： 先程中学校の説明の中でもご説明させていただいたのですが、やはり、小学校についても人口推計がとても大切だろうと思っております。なので、5年ごとの審議会は中学校だけでなく、小学校も、当然、必要になってくるのではないかと考えております。その辺りのことも踏まえて、次回、適正配置案を提示させていただきたいと思います。
- 委員： あと、小張小学校区だけではなく、豊小学校も、青木は守谷に近いので児童数が増えていく可能性もあるので、その辺りも考慮していただきたいと思います。
- 議長： 事務局の方はよろしいでしょうか。今、改めて小学校に関しては色々なご意見がありました。次回に向けて、事務局の方で、今、皆様からいただいた意見をまとめ、また、それを1つの答申案としてこの審議会にお示ししたいということで、お話をいただいております。そのような方向で、次回に、これらを踏まえた答申案を皆様にお示しするというところでよろしいでしょうか、

- 委員：それで結構なのですが、十和小学校の子どもたちを各地区に分けていいのかどうかお聞きしたいです。分割したときに、PTAの皆さんを含めて、どうなのか、次回までに、少し情報をいただけないでしょうか。
- 議長：事務局、よろしいでしょうか。
- 事務局：学校側を通じてお話をさせていただきたいと思います。
- 議長：よろしくお願ひします。よろしいでしょうか。
- 委員：はい。
- 委員：私は先程の中学校区の時に、谷井田小学校と三島小学校を伊奈東中学校区にできないかという話をさせていただきました。資料31ページに書かれているように、豊小学校、谷井田小学校と三島小学校はいずれ統合するという前提で、伊奈中学校への進学することを考えてのことだと思ひます。この考えを一度取っ払っていただき、資料31ページの図の伊奈中学校の区域に行く人を、陽光台と、小張・豊小学校の統合校とし、その代わりに、伊奈東中学校区を、板橋、東、谷井田、三島小学校というかたちにすれば、数的には恐らく上手くいくのではないかと思ひます。なので、その辺りも可能かどうか検討できたらお願ひしたいです。
- 議長：今の意見に関して、もしそうなった場合にどのような可能性があるのか、その辺りについてお示しいただきたいと思ひます。〇〇委員よろしいでしょうか。
- 委員：はい。
- 委員：検討していただきたい点があります。伊奈中学校と伊奈東中学校を統合すれば、今のことは解決するということは考えてほしいと思っております。
- やはり、伊奈東中学校は現時点で既に過小規模校になっているので、皆様のおっしゃっていることは重々分かりますし、人口が増えるという希望的観測も分かります。しかし、中学校は3年間しかありません。私は伊奈東中学校の状態は、早急に解決すべきことだと思ひています。5年後検討しようということでしたら、中学生はその間に卒業してしまいます。
- 統合して教室数が不足したら、申し訳ありませんが、プレハブでまかなうくらいの方が、私はよいと思ひてしまいます。部活はできない、専門の先生は配置できない、それが現在進行形で起きているというのが伊奈東中学校です。この前も伊奈東中学校のあるPTAの方にお話を聞いたら、部活が廃止になったと聞きました。
- そのような状況を仕方がないと、先程皆さんはおっしゃっていましたが、仕方がないの一言で済ましていいのでしょうか。大変申し訳ないですが、少し私は違うのではないかと思ひます。

三島小学校と谷井田小学校、板橋小学校と東小学校が統合に向けて今、舵を切ったわけです。それは複式学級の発生している状況はよくないという話でした。次回の答申案については、伊奈東中学校の統合を見据えてほしいと思います。そうでなければ、学区を編成することによって、過小規模校を早急に解消するというのも見据えていただきたいと思います。小絹中学校についてはまだ多少余裕があるので、5年後の見直しでよいかと思いますが、伊奈東中学校については過小規模校を解消するという案は、やはり、答申案として出すべきではないかと思います。生徒のことを考えるとかわいそうだなと思います。

委員： 第1回審議会で小絹小学校は他の学校と一緒にならないので、できれば一緒になって、競い合ってほしいといったにもかかわらず、小絹小学校は統合という話が出てきていません。このことについてはいいのですが、先程部活が無くなったという学校もあったということなので、部活についてお聞きしたいです。

人数が揃わない部活は、今小絹中学校でも実際にあります。現に、今の高校一年生で、テニスを谷和原中学校でやりたいという人が2名いましたので、小絹地区から谷和原中学校の方に行っていました。今後、そのようなことが出た場合に、どこまで許可して行かせるのかお聞きしたいです。もし、サッカー一部が谷和原中学校の方が強く、谷和原中学校には部員が多くいて、小絹中学校は試合ができないとなったら、小絹小学校からそのまま谷和原中学校に行かせたいとなった場合に、市や教育委員会としてはどこまで許可するのかを聞きたいと思いました。

議長： ありがとうございます。今の現実問題としてということですよ。事務局、これについてお願いします。

事務局： 只今のご質問につきましては、今、中学校の指定校変更の基準の中には、部活動に対する指定校変更を許可しているものもございます。条件としては、指定される学校にその部活がなく、他の学校にその部活がある場合に許可しています。条件としては3年間しっかりとその部活に励むこととございます。先程審議をさせていただいた部分、伊奈東中学校は2024年から過小規模校、小絹中につきましても、2028年から過小規模ということとなります。中学校の適正配置についてまとめとして、25ページの②に、伊奈東中学校と小絹中学校は過小規模校となることが想定されておりますので、将来的には4中学校の体制から段階的に2中学校に統合していくことが望ましいのではないかとということで説明させていただきましたところであり、事務局ではそのように考えております。

議長： ありがとうございます。よろしいでしょうか。

委員： はい。

:

議 長 皆様から色々なご意見をいただきました。これから今日出た色々な意見を、改めて事務局の方で答申案として作成していただきます。やはり、この審議会は最終的な答申案に向かっており、再度確認していただきたいのは、小学校は1学年クラス替えのできる2学級以上、中学校は1学年3学級以上の規模。10年、20年先を見据えた実効性のある市の教育施設の適正配置にするための、この審議会の諮問です。なので、事務局の方にはそこを踏まえて、次回答申案をつくっていただくと同時に、私たち委員も、そこを踏まえうえて、次回、答申案について審議する必要があるかと思いますので、改めてお願いしたいと思います。小学校の適正配置の説明についてはご了承いただきました。

後は資料として、幼稚園の適正配置についての資料を今回準備いただいております。事務局の方からお願いします。

事務局： 資料4についても、ご意見をいただければと思います。

委員： 資料4について、板橋小学校に行きたい、谷井田小学校に行きたいと意見が分かれています。地域や集落ごとに特色がありますか？

事務局： 特徴といえば、伊奈東中学校区の南太田と戸茂、戸崎エリアの方々なのですが、この地域の方が、「この地区の中学校区は伊奈中学校と伊奈東中学校のどちらがいいか」という質問に対しては、保護者の皆様から「伊奈東中学校の方がいい」という回答をいただいております。

上島地区については、現在、伊奈中学校区ですが、伊奈東中学校に近いので、事務局としては、回答は伊奈東中学校区というものが多くと予測していました。しかし、実際の回答は、伊奈中学校区にすべきだという意見がございました。特徴とえば、やはり、地域の方々にとっても、今の中学校区で三島小学校区を分けるという考えの方が多いというところを感じられました。

議 長： ありがとうございます。改めて、今の、先程の資料4にあります、小学校の統合に係る新たな小学校区の答申案について、この内容で答申案を進めさせていただいてよろしいでしょうか。

全 員： 《 異議無し 》

議 長： ありがとうございます。それでは事務局、この答申案で皆様からご了承いただきましたので、進めていただきたいと思います。

(3) 適正配置の再検討について（望ましい幼稚園のあり方）

- 議 長： 幼稚園の方、ご説明の方をお願いしたいと思います。
- 事 局： 《事務局より説明》
- 議 長： 今、公立幼稚園のあり方ということで、まずこの行政としての公立幼稚園としてのあり方について、考え方、今後の方向性についてのお示しがありましたが、皆様の方で何かご意見ご質問等ありましたら、お願いしたいと思います。
- 委 員： 資料 48 ページにあります、ポイント 1 についてです。幼稚園の役割の視点ということで、小中学校との円滑な接続ということですが、幼稚園の子どもたちが進学すべき小学校との接続ということなのかなと思います。東小学校の方はすみれ幼稚園の方に通っています。今回統合で板橋小学校の位置になるということですが、板橋小学校区は、わかき幼稚園に通っていると思います。その辺りの園区の見直しは考えておられるのでしょうか。
- 議 長： 事務局の方で回答をお願いいたします。
- 事 局： 今回、学区が統合するというかたちになっています。幼稚園の募集要項については検討しているところでございます。実際、今までは、中学校、幼稚園の学区が違っていたということもありますので、今回、学校の方は学区の見直しをかけたので、それについて、現在検討中というかたちでご了承いただきたいと思います。
- 議 長： 今の段階では検討中であるのでそこまでしか回答できず、今度は小学校、中学校に合わせていくという方向性らしいのですが、それでよろしいでしょうか。
- 委 員： はい。ありがとうございます。
- 議 長： ありがとうございます。他に何か方向性について、次回答申案をお示ししたいということで、その基になるものですので、何かそれについて、今の方向性について、ご意見ご質問等ありましたら、改めて皆さんの方からいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
- 委 員： 事務局に、次回までに検討してもらいたいのですが、資料 48 ページにポイント 1, 2, 3 とあります。その中で、ポイント 3 は一番大切で、早急にやらなければならないことであると思います。最低限ここをクリアすれば行政としての役割は一応達成できるのかと思います。あとは私立の幼稚園に任せてもいいと思うので、そういう時に必要な幼稚園数はどうなのか、検討していただけたらと思います。
- それと、先程ニーズについて説明がありましたけれども、通常の幼稚園は午前中で終わってしまいます。ニーズはやはり、今のお母さんたちが正社員として働くと、1 日預かっていただける場所ということですよ。そういうことになったときに、公的な幼稚園がどこまでそのニーズに応えていけるのか。それを検討していただきたいです。恐らく、どの園も全て預かり保育をやりますと言ったら、募集は増えると思います。

それと、先程質問があったのですが、三島のすみれ幼稚園は地理的に子どもが少ないです。なので、すみれ幼稚園は閉園という選択肢もあるのではないかと思います。例えばの話ですが、先程、小張で人口を増やしたいという話があったので、小張の小学校区に幼稚園も作のはどうでしょうか。三島はあまりニーズにそぐわなくなっているのではと思います。同じ地区にしても、地域構成をどうするか、それをご検討いただけたらと思います。

議 長： 事務局の方、よろしいでしょうか。今後の方向性として、このようなことも踏まえてご検討願いたい。次回の答申案に入れられたら、そういったものもお示しいただきたいということではよろしいでしょうか。

委 員： 先程言われたことと同じようなことになってしまうのですが、今ある公立幼稚園のわかくさ・すみれ幼稚園の施設がかなり老朽化していて耐震化が必要と言われていいます。公立幼稚園の児童数が減っていく中で、耐震化が必要な建物を今後、耐震化、耐震工事していく予定がありますでしょうか。子どもたちの命に関わる問題です。設備の充実、それから園のあり方。第1回審議会でも言われたように、既存の学区のあり方を考えていたのでは、なかなか上手くいかない。既成概念を打ち破るようなことを考えなければ、長期にわたっての適正配置は難しいということを考えていただければと思います。

議 長： ありがとうございます。事務局、よろしいでしょうか。

事 務 局： はい。

委 員： わかくさ幼稚園では今まで抽選を行ってきました。本年度も抽選を行いました。結果的に入園されたお子さんは58名と、定員割れをする結果となりました。わかくさ幼稚園と谷和原幼稚園とで、小学校区の関係で区切った結果もあり、谷和原幼稚園では定員割れをしなかったのですが、わかくさ幼稚園では定員割れが発生するという事態が発生しました。今後は耐震化が必要ということも含めて、わかくさ幼稚園とすみれ幼稚園の両方で耐震化することを考えるのであれば、例えば、わかくさ幼稚園の一本に絞って耐震化をするという方が、費用の面としてもいいでしょうし、人数が減ることを考えると、わかくさ幼稚園は元々中学校であったということもあり、非常に広い幼稚園で、いい環境でもあります。もちろんすみれ幼稚園もいい幼稚園だと思います。それらを踏まえて2園でやっていくということを検討していただきたいと思いました。

議 長： 今いただいた意見を踏まえて、次回答申案というかたちでお示しいただけますか。

事 務 局： はい。

議 長： ありがとうございます。

委 員： 今の耐震化の件で色々とお話が出たと思いますが、答申案を出していただくときに、統合後の学校の話になってくるとはと思いますが、学校自体の耐用年数があると思います。その辺りも考慮して、情報を出していただいた方がいいと思います。

例えば、伊奈中学校と伊奈東中学校が統合した場合で、伊奈中学校は耐用年数がリミットですといった際に、伊奈中学校を建て替えていかなければなりません。そのようなときに、伊奈中学校の建っている場所に建て替えは当然できませんので、違う新たな用地に新設の伊奈中学校を建てなければいけないという話になってくると思います。その辺りが既に分かっている状態であれば、情報を出していただいた方がいいのかなと思います。

議 長： ありがとうございます。きっと今のお話は“適正配置”という言葉にも含まれていると思います。あるべき姿、今までの、既存ではない、場合によってはこういうところに建て替えてもいいのではないかというのも、1つの今後の方向性ではないかと思います。

他に何かありますか。なければこれもちまして、今日いただいた、小学校、中学校、幼稚園について意見を踏まえた答申案を次回お示ししていただけるということで、委員会の方はこれでよろしいでしょうか。それでは事務局にお返ししたいと思います。よろしく申し上げます。

(4) その他

事務局： 次回は6月13日の木曜日、午後7時から開催したいと考えております。日程調整の程、よろしく願いいたします。

5. 閉会

事務局： 長時間に渡りまして慎重なご審議ありがとうございました。事務局の方で今日出た意見をまとめて、次回の審議会までに出していきたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。

以上